

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、愛と奉仕に満ちた施設、グループホームおよび保育園を実現し、神の栄光と高齢者の福祉、子供達の未来のためにつとめる。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しい介護への転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
総括			
20年目を迎えた2015年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、大きな意義のある1年であった。			
2015年4月より高齢者事業部門の新施設、認知症高齢者グループホーム「オリμπア篠原」を神戸市灘区に開設、新たなチャレンジによって、「全ての人の希望のために」建てられたオリμπアの働きをより強めることとなった。			
また、介護・保育の世界において、近年最も重視されるサービスの質であるが、地域密着型サービス第三者評価をはじめとする各種外部評価において、今年度もオリμπアの取り組みが非常に高く評価された。これは、各部において、ひとりひとりの利用者・園児のために、質の向上に積極的に取り組んできた成果の表れである。			
更に今年度は、人材育成に注力し、外部団体と協働して研修を開催したほか、介護職員初任者研修を初めて開講し、オリμπア内部のスタッフに留まらず、地域活動におけるリーダーとなることのできる人材の育成に貢献した。			
この1年を無事に乗り切ることができたことは、これから立ち向かわなければならない数々の試練に対する自信と備えになるであろう。我々の経験をもう一度整理し、2016年度に向かって前進していきたい。			
運営評価			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 2015年度は、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。			
2. 新しい介護への転換 [小規模] : ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献した。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・大阪大学大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、スウェーデン研修を実施した。また、香港・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努めた。			

施設	オリンピア	報告者	施設長 太西 裕二
事業目標	1. 地域における福祉拠点としての役割を果たす 2. 安定した財政基盤の確立 3. 法人内および地域団体とのネットワーク強化 4. 新規プロジェクトの展開 5. 人材の確保と育成		
総括			
<p>施設部門が、過去最低とも見られる不調を続ける中、在宅サービス部門については、逆に、過去最高の結果を残すこととなった。特養・ショートについては、いくつかの要因が重なり利用が伸び悩んだが、デイ・サテライトデイについては、過去最高となる利用人数を記録した。また、居宅介護支援や地域包括(あんしんすこやかセンター)についても、ニーズの増大・多様化に合わせ、順調にその数を増やすことが出来た。オリンピア全体としては、地域活動である『おりんぴあ食堂』も順調に回を重ね、すでに3年目に突入している。利用者も、平均25名を数え、口コミでも利用者層は広がってきている。全部門通しての最大の課題は、人材不足であり、15年度もその課題は大きく影響し、スタッフ個々の負担は、ますます大きくなってきている。</p>			
事業評価			
<p>1. 『おりんぴあ食堂』では、3年目に突入し、毎回来ていただける方で約20名。新規の方合わせ平均25名の利用で推移している。しかしながら、福祉拠点としての役割については、まだまだ担い切れていないと考える。食堂企画とあんしんすこやかセンターの更なる充実により、その役割を担っていくことが、今後の課題として残った。2. 部門により好不調がはっきりした年であった。施設部門の不調を在宅部門が補ってくれた状態である。ここ数年、同様の状態が続いており、各部門が揃って結果を残すことが、次の課題である。3. 法人内の連携については、利用者のニーズに合わせ連絡を取り、法人内のどこかの部門でサービス提供を行う体制が実行できた。また、地域団体については、あんすこセンターを筆頭に、在宅部門・施設部門ともに、地域団体やボランティア団体、各種学校との連携、協働を実践できた。4. 新規プロジェクトの実行は出来ず。16年度の大規模改修に合わせ、企画をしておく。5. 全部門が共通して悩まされたことが人材不足である。14年度から尾を引きずっている課題でもあり、大きく改善する事はなかったが、新たな離職者による深刻化もなかった。スタッフの資質については、苦しい中向上した。</p>			
研修	<p>[内部]新入職員トレーニング合宿、新入職員研修、新入職員OJT、高齢者虐待防止研修、介護リフレッシュ教室、排泄ケア研修、福祉用具(車いす)操作研修、身体拘束撤廃研修、褥瘡ケア研修 他 [外部]中央区虐待防止ネットワーク、神戸市感染症対策講座、栄養士会研修、介護士会研修、相談員会研修、介護支援専門員更新研修、主任介護支援専門員研修、</p>		
見学・実習 ボランティア	<p><実習>神戸医療福祉専門学校(4)、神戸松蔭女子学院大学(4)、武庫川女子大学(2)、布引中学有志(3)、介護等体験(10)、神戸YMCAホテル学科介護体験(25)、トライやるウィーク(3)、 <ボラ>中央小学校(15)、神戸ポートワイズメンズクラブ&混声合唱団くさぶえ(40)、神戸聖愛教会(14)、おりんぴあ食堂(300)、</p>		
行事	<p>介護リフレッシュ教室、おりんぴあ食堂、クリスマス会、夏まつり、お花見、小学校・幼稚園・保育園交流イベント、おやつ作り、外出・遠足、地域ケア会議、もちつき、イースター、音楽会、地域ケア会議、地域連絡会 など</p>		
取得資格			

事業報告

2015年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	太西 裕二
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 健全な財政基盤の確立 3. 地域に開かれた施設づくり 4. 豊かな人材確保と育成の強化 5. 新規プロジェクトへの挑戦				
事業評価					
<p>1. 年間を通して人材難であったにもかかわらず、可能な限りお一人お一人に寄り添ったケアを実践できた。また、一つ一つの関わりにおいて、その根拠を考え取り組むことが出来た。一方で施設の枠にとられない外出などは、スタッフ数の不足などから多く実践できなかった。2. 大幅な上積みは出来なかったものの、何とか予算を達成することが出来た。しかし、利用率は目標数値に届かず100.4%にとどまった。特養の退所者が出たときに、次の入居をすぐに決めることが出来なかった。3. オリンピアとして『おりんぴあ食堂』などの地域向けイベントの開催に尽力したが、施設単体としては、大きな成果を上げることが出来なかった。それでも積極的に見学や実習を受入れ、また、あんすこや地域居宅からの緊急利用相談を多く受け入れ、関係機関での認知度は高まっているように感じる。4. 大規模修繕について理事会の承認もいただき、具体化に向けて大きな一歩を踏み出すことが出来た。より安全で安心できる環境を整えていく準備が出来た。今後はそれに見合ったケア内容を、将来像を見据えながら充実させていくことが必要である。5・6. 人手不足という最大の難関を乗り切った自信は大きい。モチベーションも高く、当該年度で大きなチャレンジは出来なかったものの、新年度に繋がる体制作りが出来た。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者数7,380人(28.5人/日)を目指す 2. コストカットに努める 3. 質の高いサービスを提供する				
事業評価					
<p>1. 年間利用者数7,380人(28.5人/日)を目指す:年間利用者数は7,927人(30.6人/日)と、目標値を大きく上回り、初めて一日平均を30人台ににさせることが出来た。特に秋頃からずっと数字が上がっており、毎年入院等による長期欠席の方が増える冬場も、逆に数字を伸ばすことが出来た。他のデイサービスと掛け持ちで利用されていた方がオリンピア一本で毎日利用して下さったり、利用回数を増やして欲しいという依頼が毎月絶えなかった。今年度も外へ営業に出る時間は取れなかったものの、他機関やご利用者様、ご家族様から信頼して頂いている結果がこの様な数字に結びついたと思われる。</p> <p>2. コストカットに努める:上記の様に数字が伸びる中、スタッフ数を過去最少の人数でシフトを回すことが出来た。また、運転体制の見直しにより、更なるコストカットにも取り組んでいる。</p> <p>3. 質の高いサービスを提供する:スタッフ数が少なくなっているが、安全に楽しく過ごして頂くためにしっかり目配り、気配りを意識して取り組むことが出来た。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア	部門	サテライト	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者平均12.8人を目指す。 2. 月・火・水・金曜日は登録18名以上を維持および目標に、木曜日は登録10名以上を目指す。				
事業評価	<p>1. 年間利用者平均12.8人を目指す。：2015年度年間利用者平均は12.1人であった。この0.7人の誤差はほぼ皆勤で出席されていた3名の方が本部のデイサービスなどへ移行となったことが最大の原因である。他にオリンピアと地域の行事(給食会・手芸の会など)を掛け持ちされる方が増加したことが挙げられる。前者はオリンピア全体の収入としては増加するので、サテライトとして登録人数を増やすことに尽力する。後者は昨年から1度も休まずに出席された方に皆勤賞を授与していたが、今年から準皆勤賞やゲーム賞を授与し、出席率向上に努めている。</p> <p>2. 月・火・水・金曜日は登録18名以上を維持および目標に、木曜日は登録10名以上を目指す。：月・火・金曜日はほぼ目標を達成することが出来た。一時的に18名を下回ることはあったものの、主に利用者の皆様からの紹介による新規登録により登録人数を維持することが出来た。水曜日は目標には届かなかったものの、年度末に登録人数15名となり、2年ぶりの水準となった。木曜日は今年度新規登録された方が皆勤賞を受賞するなど、出席率は微増したものの、目標を達成できたのは半年間だった。引き続き利用者の皆様やあんしんすこやかセンターへの広報活動を継続し、今年度の反省を活かしていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 認定調査の資質向上を図る 3. 質の高い居宅介護支援 4. 介護予防マネジメントを行う 5. 介護支援専門員の資質向上を図る 6. 自己評価を行う				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立：要介護者プラン件数年間850件、要支援者プラン件数年間153件となった。介護支援専門員が増えた事でプラン件数を増やす事ができた。</p> <p>2. 認定調査の資質向上を図る：専任体制を取っていたが、プラン件数を増やす為に兼任とする。認定調査現任者研修の参加やe-ラーニングを活用し、資質向上が図れた。</p> <p>3. 質の高い居宅介護支援：月1回は自宅訪問、状況把握、モニタリングを行う。また、担当者会議を行う事で情報共有を行い、計画書を作成。在宅での生活を支援している。</p> <p>4. 介護予防マネジメントを行う：あんしんすこやかセンターから委託を受け、プラン作成を行った。</p> <p>5. 介護支援専門員の資質向上を図る：研修など参加する事で資質向上を図った。参加する事のできなかった研修などは記録を閲覧する事で情報共有を行った。</p> <p>6. 自己評価を行う：年2回、自己評価を行い、自己や業務の見直しを行った。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括支援センター	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族が安心して相談のできる窓口としての認知をさらに高める 2. 地域ケア会議等を通じて高齢者と地域をつなげる役割やネットワークづくりと安心して住める地域づくりを支援する。				
事業評価	<p>1. 親しみやすいセンターの周知を図るために、圏域内病院の受付待合室を借りて『出張相談会』を継続開催した。月1回、圏域内の薬局や理美容店、認知症サポーター店等、各種事業所を継続訪問し、資料を持参し、顔の見える関係づくりに努力した。オリンピア食堂の開催案内を地域給食会や喫茶会、NPOのサロン等で配布した。また、TVや講習会などであんしんすこやかセンターの役割について伝える機会を持つことができた。</p> <p>2. 地域ケア会議で出された地域課題の解決の為、地域のつどいの場の立ち上げを支援した。計17回の開催で参加者は延べ400名以上になった。この活動を通して、ボランティア養成講座が開催され、地域の担い手養成の講座が開催され、またNPO等新たな関係機関とのネットワークを構築することができた。</p> <p>3. 介護予防給付プラン件数は月平均310件を超えるようになった。それに伴い、委託を依頼する居宅介護支援事業所数も最大40件を越え予防プラン件数の約46%が委託になっている。</p> <p>4. 神戸市主催の各種研修、センター説明会の他、医療と介護の多職種連携会議などに参加し、意見交換の他、情報収集に努めた。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者の生活の質の向上 3. 地域との交流 4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践		
総括	<p>オリンピア灘は介護に関する相談窓口として、通い・憩いの場として、そして生活の場として住み慣れた地域でその人らしい暮らしを送ることができるよう、高齢者介護の拠点として君臨してきた。また、オリンピア篠原の開所で、今まで以上に高齢者の方々の様々な相談を受け、灘区の認知症ケアの拠点となってきた。また、GH第三者評価において今年度も高く評価され、パーソンセンタードケアの理論に基づいたオリンピア灘のケアを理解していただけた。</p> <p>Salon de l'Olympia Nadaや、オリンピアバザールを通して、地域の方々の憩いの場として地域に開放し、交流の場となっている。灘区の幼児から高齢者まで、幅広い方々にオリンピアを知っていただくことができた。来年度も灘区の高齢者事業のトップリダーとして成長できるように、新しいことに更にチャレンジしていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:グループホームの入退居が年度当初は続いたが、居宅の担当件数、デイサービス利用者数も含めて順調に数字を伸ばすことができ、最終的に過去最高の利用実績を残すことができた。介護保険法の改正に伴う利用料の減少の影響を感じさせない結果となった。</p> <p>2. 利用者の生活の質の向上:今年度も部署、ユニットの枠を超えた入居者同士の関わりを通じてオリンピア灘全体で様々なことにチャレンジし、利用者同士がお互いに喜びや夢を分かち合うことができた。パーソンセンタードケアの理論に基づいた「その人らしい」暮らしを支えるケアが確実に定着している。</p> <p>3. 地域との交流:Salon de l'Olympia Nadaやオリンピアバザールを通じて、地域の幼児から高齢者の方々と交流する機会が多くなり、着実に情報の発信の場となっている。</p> <p>4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践:日々理念に基づいたケアの実践に努め、それぞれのキャリアや希望によって、積極的に法人内外の研修に参加し、ケアの向上を意識づけることができた。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員(トレーニング合宿・研修・OJT)・若手リーダー育成研修・パーソンセンタード勉強会 ・パーソンセンタードコミュニティ・理事長研修・認知症ケア・高齢者虐待防止・身体拘束防止・成年後見 ・介護職員初任者研修・スウェーデン研修・自己評価、人事考課</p> <p>[外部]認知症介護実践者研修・LD理解のための基礎と実践講座・法令遵守・市民救命士</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学]利用希望(26)・上野地区民生委員(11)・ハローワーク灘職員(3)・淑徳大学生(7)</p> <p>[実習]オリンピア篠原職員(8)・神戸市立原田中学校(9)・</p> <p>[ボランティア]オリンピア都保育園児・オリンピア神戸北保育園児・ワーフチェロカルテット・はなかげ会・餅つき</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・ご家族懇談会・ご家族懇親会・オリンピア都、神戸北保育園児交流会・BBQ ひな祭り・Salon de l'Olympia Nada(チェロ・琴コンサート)・餅つき大会・イースター・ハロウィン・クリスマス(礼拝、パーティー)・消防避難訓練・第三者評価・神戸聖ミカエル教会バザー・オリンピアバザール、外出(花見・食事・ドライブ・初詣・沖縄・美術館・どうぶつ王国・京都交通博物館・大衆演劇)</p>		
取得資格	介護福祉士(1)・介護支援専門員(1)・介護職員初任者研修(2)・市民救命士(2)		

事業報告

2015年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築: オリンピア灘の入居者は、それぞれのペースでその方らしく毎日を過ごされている。スタッフは理念に基づき、おひとりおひとりに自己決定していただけるお声掛けを実践している。おひとりおひとりが、それぞれに役割を持ち、活躍されている。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成: 新人、中堅、ベテランとそれぞれが各自の目標を持って業務を行い、研修を積極的に受講することができた。入居者の介護計画作成・見直しにおいてもモニタリング、アセスメント等絶えずカンファレンスを行った。スタッフの成長にもつながる取り組みに対して、GH第三者評価において高く評価していただいた。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動: Salon de l'Olympia Nadaやオリンピアバザールにおいてコンサート等行い、地域の幼児から高齢者の方々の憩いの場となった。また、色々な催しの後には、その場で気軽に介護の相談を受けるといった場面もよく見られ、地域に開かれた、情報発信の場となっている。</p> <p>4. 財政基盤の確立: 年度当初は入退居が続いたが、最終的に年間のべ9,732人、稼働率98.5%と、過去最高の稼働率となった。皆様元気にお過ごしで、入退院が少なかったことが稼働率を下げなかった要因である。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立: 年間のべ752名の方が利用された(1日平均2.1人)。年間を通じて安定した利用率だった。デイ開所以来の利用者が特養に入所されたため利用中止となったが、新規利用希望者を募り、すぐに受け入れることができたため、利用率を下げることはなかった。また、ショート利用等による欠席分を他の利用者のイレギュラー利用で埋めることが定着し、これも、利用率の安定に繋がっている。</p> <p>2. サービスの質の向上: グループホームの入居者と日中の生活を共にするデイサービスが定着し、家事、散歩やお買い物等、日常的な活動を通じて生活リハビリができています。家ではなかなか行うことが少なくなっていた家事等を積極的に行うことによって、自信を取り戻し、在宅での生活を維持されている。また、他の事業所のデイサービスに馴染めなかった方の受け皿となって定着し、地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーにオリンピア灘のデイサービスのケアを理解していただき、最後の砦となって相談に来られるようになっている。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック灘	部門	居宅介護支援事業所	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 新規利用者の獲得と健全な運営 2. 介護支援専門員としての資質や技術の向上 3. 地域、他事業所との交流				
事業評価	<p>1. 新規利用者の獲得と健全な運営: 昨年9月のケアマネジャーの交代から、利用者、事業所等関係の修復に努め、新規利用者を紹介いただけるようになった。結果、要介護者29件、要支援者22件を担当させていただくことができた。年度当初からかなり高い予算設定を立てたものの、十分に達成することができた。法人主催のイベントや各種勉強会でチラシを配布し、各介護保険サービス事業所への営業を強化することにより、新規利用者の獲得、数字の改善をした。また、担当した利用者の把握を徹底し、入院者や施設入所者を出さないようにした。</p> <p>2. 介護支援専門員としての資質や技術の向上: 近隣の事業所で開催されているケアマネ勉強会や見学会、市や区、各あんすこが主催の研修会、福祉サービス経営勉強会、オリンピック福祉塾講座等へ積極的に参加し、職種を問わず交流を持ち、親交のある事業所に対して、こちらから積極的に情報交換を行うことができた。また、灘区の居宅介護支援事業所連絡会のお世話係を引き受け、より他事業所関係機関と密接に関わった。</p> <p>3. 地域、他事業所との交流: 地域のインフォーマルな資源を知り、その情報を積極的に発信することにより、外部・地域に向けてオリンピック灘の存在をアピールすることができた。</p>				

施設	高齢者総合福祉施設 オリμπシア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>11周年を迎えた2015年度は、オリμπシア兵庫にとって、大きな試練となる年度であった。2015年4月に実施され介護報酬改定においては、オリμπシア兵庫が注力する地域密着型サービスの報酬が大幅に切り下げられたほか、相次ぐ大規模施設のオープンによって利用者の獲得競争は激化し、各部門ともに苦戦を強いられる結果となった。しかしながら、Cafe Olympiaで初めての試みとなる「夜カフェ」には、地域の方々に数多くお越しいただき、地域におけるネットワークをより強固なものにしたほか、神戸市より「生活支援・介護予防サポーター養成研修」を受託することができたことは、今後の地域包括ケアシステムの展開の中で、オリμπシア兵庫が重要な役割を担うことに繋がると思われる。アクションが人と人を繋ぎ、地域を動かしていくことができるよう、さらにチャレンジを続けていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせるにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。</p> <p>2. 広報活動の強化：ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、スタッフが自主的に連携し、ポスティング活動を展開するなど、ひとりひとりの持つ発信力を強化することができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立：2015年4月の介護報酬改定による収入減に加え建物や備品の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、年度末より次年度に向けて着実な備えをすることができた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：神戸市より「生活支援・介護予防サポーター養成研修」を受託することができた。スタッフが講師や準備、当日スタッフ等を担当することにより、自己を成長させるよい機会となった。</p> <p>5. 人材の育成：従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの内部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・認知症ケア感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 食中毒・感染症予防講習会・感染症対策講座・神戸市予防給付マネジメント従事者研修 発達障害理解のための基礎と実践講座・Tライン研修会・キャリアアップ助成金研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>大阪大学人間科学部(9)・神戸リハビリテーション専門学校(4)・須佐野中学校(3)・吉田中学校(3) 兵庫県職員(4)・播磨福祉専門学校(36)・ラーネットグローバルスクール(6)・西落合中学校(1) 教職課程介護等体験・(56)未来創世塾塾長(1)・みねいケア(2)・海光園(7)・神戸国際大学(11名) 県立国際高等学校(2)・ミカエル兵庫幼稚園(40)・神戸聖隷福祉事業団(2)・タイ科学技術省(8)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・LIGHT IT UPBLUE・2コマまんが教室・ご家族懇談会・海釣り公園 チェロコンサート・お餅つき・王子動物園・Dog Cafe・旅行(しあわせの村・淡路)・アートCAFE・豆まき バザー(神戸聖ミカエル教会・笠松商店街)・ルミナリエ・須磨水族園・舞子公園・うどんツアー 初詣・書き初め・Salon de l'Olympia・夜カフェ・オリμπシアバザール・みさきコーラスコンサート</p>		
取得資格	介護福祉士(1名)初任者研修(2名)実務者研修(1名)		

事業報告

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守「生活の主人公は利用者ご本人です。」 2. 地域に密着した運営を行う。				
事業評価	1. ケア理念の遵守「生活の主人公は利用者ご本人です。」 ・パーソンセンタードケアの考えを基本とし、18名お一人お一人に合った生活を追求して行けた。ご利用者の“何気ない言葉を形に”を意識し、企画に繋げていけた。個々の希望に対しての企画が多く作れたことは評価できる。 ・ご利用者の入れ替わりも多い中、ご利用者を“知る”ことに対して働きかけ、ご本人を知ることにより、持てる力を最大限に発揮していただけるようお手伝いさせて頂いた。 ・グループダイナミクスの効果により、新たなご利用者を自然に迎えられた。その方の個性を出して生活していただける効果が生まれていることは良かった。				
	2. 地域に密着した運営を行う。 ・Salon de l'Olympiaでのヴァイオリンコンサート、恒例の笠松ふれあい祭り、そして今年度は、新たな取り組みとして、夜Cafeを行い、多くの地域の方々にお越しいただけたことで、密な関わりを取ることができた。 ・運営推進会議では、新たな役員を迎え、司会を変えることで、内容、議論の幅が広がった。				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. 広報活動 2. スタッフの資質向上 3. サービスの向上				
事業評価	1. 広報活動:今年度の予算を達成するにおいて必要不可欠なことは居宅支援事務所への積極的なアプローチである。既存の関係性を持つ居宅支援事務所にはより密な関係を図る。またあまり関係性がない所へはイベント情報等の発信をきっかけに新たな関係性の構築を図る。また広報活動の場として今後病院内にある地域連携室や老人保健施設の相談員へと視野を広げ広報活動を行うことで部門だけではなく法人の広報も兼ねる。				
	2. スタッフの資質向上:資格取得の為にバックアップを行うことで個々のスキルアップを図る。また法人内外における研修への積極的な参加を図ることでスタッフの介護職としての資質だけではなく人間性の向上にも努める。				
	3. サービスの向上:ショートステイにおいて提供するサービス向上の為にユニットリーダーを中心として理念と3つの約束を改めて確認することでケアの方向性の決定とそれを基本として新たなサービスの展開を図る。具体的には保険外での企画実施。日帰り旅行や国内の一泊旅行、その経験を積むことで海外旅行も視野に入れ計画的にスムーズに進めていく。またその他に地域における活動の一つとして緊急ショートの受け入れを前向きに行うことで日々介護で悩む方々をひとりでも多く救うことで地域に貢献をしていく。				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 教育事業の継続実施				
事業評価					
1. 2015年度収入予算の達成へ向けた利用者確保 15年度は新規受入が15名、利用終了が9名で6名の超過となっているが、年末より最大5名が同時期に入院するなど下半期において苦戦を強いられることとなったが、充足率で80%以上は維持している。					
2. 地域との密着 神戸市の生活支援・介護予防サポーター養成研修事業を受託したことにより兵庫区、長田区、北区において54名のボランティア養成に関わることが出来た。将来、予防介護が総合事業に移行した後、こうした関わりが我々の活動において有利に働くものと考えている。					
3. 人材育成の強化 新規スタッフ2名を加え、オリンピアとしてケアの在り方の継承を行った。					
4. 教育事業の継続実施 初任者研修を実施したが受講生が6名に留まった。					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者の尊重				
事業評価					
1. 財政基盤の確立: 年度の収入予算を達成することができた。また、必要な方にはオリンピアでのサービス利用に繋げて、法人全体の財政基盤の確立に貢献することができた。					
2. 地域、他事業所との連携強化: 今年度は圏域の浜山地区で、あんしんすこやかセンターでハートネット地域会議が開催されるようになり、地域の他事業所のケアマネジャーとも連携を強化することができた。また、最近ではヘルパー事業所からご利用者を紹介されることも増えており、よりいっそうの関係強化を行えた年度になった。					
3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ: 年間を通して、兵庫区のケアマネジャー連絡会主催の勉強会に出席を続けることができた。ケアマネジャーの業務に関してや他業種との合同での勉強会など、スキルアップと横の繋がりの構築を行うことができた。					
4. 新規利用者の獲得: 今年度も新規依頼の受け入れを継続した。その結果、件数を維持することができた。					
5. 利用者の尊重: 法人の理念を基に、ご利用者がどういった生活を送りたいのかを常に考え、利用者主体ということ意識して、ケアマネジメントを行うことができた。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者		管理者	中村文香
事業目標	1. 地域への周知・定着・利用者の獲得 2. 収入の安定化 3. ヘルパーの確保 4. 利用者第一のサービス提供						
事業評価	<p>1. 地域への周知・定着・利用者の獲得：地域のみなさん、ケアマネジャーからケアの面で評価してもらっており「オリンピックにしか頼めない」とったケースも増えている。オリンピックのデイやショートを併用してくださる方も増えオリンピック全体で関わらせていただき、柔軟に対応することができるようになってきた。</p> <p>2. 収入の安定化：今年度は大きく予算をしたまわる結果となってしまった。年度の前半において人員を確保できなかったことが大きな要因である。年度後半からはヘルパーの数も安定し、サービスを提供できる体制をとることができたが、予算到達まではいかなかった。</p> <p>3. ヘルパーの確保：これまで登録ヘルパーも起用していたが、ケアの質を重視して、パートヘルパーのみに募集をしぼっている。空き時間の問題等、課題はあるものの安定したサービス提供にはこちらの方が良いと判断した。</p> <p>4. 利用者第一のサービス提供：多様なニーズがあるなかで、介護保険の範疇を超える依頼も増えている。適宜説明させていただいて、必要な場合は自費サービスという形をとっている。それぞれの方のご要望に合わせてこれからも適切なサービス提供に努めたい。</p>						

施設	オリンピア都保育園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. 保育内容の充実 2. 地域子育て支援の充実 3. 保育の専門職としての資質向上 4. 次世代育成支援 5. 関係団体との連携 6. 幼保連携型認定こども園移行準備		
総括	<p>2015年度は、子どもたち一人ひとりがその子らしく落ち着いて、集中して遊び込める環境の見直しと、2016年度の幼保連携型認定こども園移行準備を大きなねらいとして活動した。環境の見直しについては、職員一同で子どもの発達について学び直し、発達に応じた環境と、一人ひとりの興味・関心が満足できる環境の組み合わせを工夫して作りあげることができた。幼保連携型認定こども園移行準備としては、行政資料作成とオリンピアらしい教育を考える作業を職員で分担しておこなった。地域子育て支援充実の積み重ねから、オリンピアの教育・保育を受けたいという子育て世帯が地域に増えてきている。これについては大変評価できるとともに、今後のこども園としての運営の安定につながっていくと考える。</p>		
事業評価	<p>1. 保育内容の充実: 年齢に応じた環境作り、一人ひとりの興味・関心に応じた環境作りにより、子どもたちがより落ち着いて集中して遊び込めるようになった。</p> <p>2. 地域子育て支援の充実: オリンピア子育てサロンは地域に開かれた場として定着した。今年度は過去最高の参加人数となった。親講座もバラエティーに富んだ内容を用意できた。</p> <p>3. 保育の専門職としての資質向上: 子どもの発達について学び直し、子どもの遊びの充実につながった。</p> <p>4. 次世代育成支援: 保育士不足が問題となるなか、養成校と連携をし、実習生・インターンシップの受け入れやワークキャンプ・トライやるウィーク(私立中学校を含む)の受け入れをていねいにおこなった。</p> <p>5. 関係団体との連携: キリスト教保育連盟、聖公会保育連盟に参画し、キリスト教保育の理解・充実を図った。神戸市私立保育園連盟においては食育啓蒙普及活動の計画・実施をおこなった。</p> <p>6. 幼保連携型認定こども園移行準備: 全職員で考え、役割を分担して責任を持って準備を進めることができた。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員研修・乳幼児市民救命士救急講座・子どもの人権学習・事例研究・オリンピアの理念について[外部] 新任研修・アレルギー対応・食育研修・赤ちゃん学講座・乳児保育・保護者支援・統合保育理解・LD理解のための基礎と実践講座・感染症対応・リスクマネジメント研修・キリスト教保育連盟研修・聖公会保育連盟大会・子ども子育て支援新制度研修 他</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>神戸松蔭女子学院大学管理栄養科(4) 頌栄短期大学(2)・芦屋短期大学(3)・相愛大学(1) 夙川短期大学(1)・大阪子ども総合学院(1)・日本児童保育専門学校(1) ワークキャンプ(中学生8名、高校生4名)・トライやるウィーク(4中学校10名)・親和中学校(20名) 園見学親子、一時保育検討親子見学多数</p>		
行事	<p>進級式・入園式・礼拝(週1合同礼拝、イースター、ペンテコステ、花の日、収穫感謝、クリスマス) 健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科)・同園会(2回)・七夕の集い・プールあそび・お泊まり保育・夕べの集い・ぶどう狩り・グランパママの会・運動会・芋掘り遠足・秋のまつり・ハロウィン・生活発表会・個別、クラス懇談会・ひなまつり・卒園式・クッキング活動・英語であそぼう 他</p>		
取得資格	安全衛生推進者・甲種防火管理者・乳幼児市民救命士		

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	中久木 康弘
事業目標	1.「キリスト教保育」の充実 2.「地域の子育て支援施設」としての働きの充実 3.「スタッフ研修」の充実 4.「地域及び関係団体との連携」の充実 5. 健全財政の確立		
総括	<p>2015年度は神戸北保育園を開園して6年目を迎え、全職員で実施している保育を客観的に見つめ直す年となった。実施しようとしている保育のひとつひとつが、キリスト教保育の6つの目的にどのように繋がっているのか、さらに子どもの情緒を安定させ、子どもの主体を大切にする保育とは何なのかを具体的にさせ、職員全員で確認を行った1年であった。さらに、職員会をはじめとする会議は、必ず礼拝と祈りを持って始め、キリスト教保育に係る職員の基本となる聖書からの学びを定着させることができた年でもあった。</p> <p>また、地域の子育て支援施設として、行政等の関係団体と連携をし、より多くの方々にオリンピアの保育を体験してもらうできた。</p>		
事業評価	<p>1. 保育の充実:子どもが安定した情緒を保ち、自ら遊ぶことを通して「自分で考え、主体的に行動する力」を獲得できるように、月案・週案・日案のフォームを見直し、流れる保育のため日課と決まりを具体化させ安定した生活を保つことができるようになった。更に、子どもが自発的に取り組むことができる遊びの環境を創り出すために、各クラスの保育室のレイアウトをクラス担当だけでなく、何名もの職員で考え工夫をした結果、職員間の連携が強まった。</p> <p>2&4. 子育て支援施設の充実と関係団体との連携:子育て支援事業の実施だけでなく、行政の子育て支援センターとの連携をより強め、オリンピア保育園での保育を近隣の子育て中の保護者に知ってもらうことができた。</p> <p>3. スタッフ研修の充実 研修も中身を吟味し、個々の職員にとって望ましい研修を受講するようにしたこと、内部の勉強会を充実させ、全員が共通した方向性を持たすことができた。</p> <p>5. 健全財政の確立 支出の中身をひとつひとつ明確にして、投資するべきところと削減するところをはっきりさせた。少しの手間をかけることを惜しまずに丁寧にかつ大胆に支出をカットすることができた。</p>		
研修	<p>[内部]「新入職員トレーニング合宿」「新入職員研修」「新入職員OJT」「危機管理研修」「人権研修」 [外部]「社会福祉の改正について」「児童相談所と保育園の連携」「新制度施行の現状」 「クレーム対応」「保健師と保育園との連携」「専門性のある保育士講座」「特定給食施設研修会」「食育フェア」 「障がい児保育」「保育内容研修会」「子どもの主体を大切にする保育研修」「食生活フェア」「キリスト教保育」</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[実習] 聖和短期大学(2)・親和女子大学(1) [ボランティア] 福祉体験学習(ワークキャンプ) 神戸甲北高校(3)・北神戸中学校(2) 灘中学校(1)・トライやる・ウィーク 北神戸中学校(5)</p>		
行事	<p>入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・親子遠足・花の日礼拝・一泊お泊りキャンプ 乳幼児保育参観・敬老の日の集い・運動会・ブドウ狩り・私保連北ブロック青空保育・保育園バザー ミカエル教会バザー・子育て支援センター体験保育・収穫感謝祭(ハロウィン)・クリスマス会・お餅つき 私保連よいこの集い・大きくなったよの集い・お別れ遠足・お別れパーティー・卒園式</p>		
取得資格			

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 地域の拠点になる		
総括			
<p>オリンピア神戸西開設から6年が過ぎ、2015年度は、チャレンジ・実現・成長の一年であった。年度当初は、制度改正による介護報酬の収入減が見込まれていたものの、各部門とも力を合わせて、本当によく頑張り、過去最高の収益で終えることが出来た。具体的には、多機能ホームの登録人数を25名から29名まで増やせたこと、特別養護老人ホームの年間稼働率も98%を越え、隣接、明石市にある居宅介護支援事業所も、秋口から実働を開始した。受託開始時からの検案事項であったLSA事業の集会室利用も許可が下り、講習会や茶話会を実施してコミュニティの支援を積極的に実施出来るようになった。成長と飛躍に繋がることを期待している。</p> <p>今後も光朔会と地域の架け橋を担える事業活動が出来るよう、力を合わせて、前向きに歩んでいきたい。</p>			
事業評価			
<p>1. その人らしい暮らしの実現:特養・多機能・居宅・LSAの5部門が連携を強化し、高齢者の総合相談窓口としての機能を果たす実践が出来た。まず、利用者の声に耳を傾けることを中心に始め、各々に役割を担って頂き多くのことにチャレンジをしてきた。地域の高齢者が友人を連れて遊びに来られたり、困っている方を紹介して頂いたりすることもあり、光朔会の理念に即した関わりが出来ていると評価している。2. 財政基盤の確立:全部門、年度当初に立案した予算を達成し、過去最高の収益で得ることが出来た。事業収支差額は、26,401(千円)であった。3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践:あんしんすこやかセンターや民生委員と連携し、独居高齢者の支援を継続している。法人内の横の繋がりも活かし、柔軟に対応している。4. 小規模多機能ケアの確立:各部門が協力して独居高齢者の見守り、喫茶での食事提供、必要に応じた訪問、施設での受け入れ、ターミナルケアの受け入れまでと自施設の機能を最大に活かす取り組みを継続している。5. 地域の拠点になる:地域の諸行事への参加、専門職の派遣、他職種との協働、一般参加プログラムの実施等継続している。</p>			
研修	<p>[内部]新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修・介護職員初任者研修</p> <p>[外部]介護支援専門員従事者研修・喀痰・吸引研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修・生と死を考える会主催の講演会・LD理解のための基礎と実践講座・キャリアアップ助成金研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>兵庫県立明石西高等学校 インターアクト倶楽部(8)・神戸須磨の浦女子高等学校(3)・神戸市立玉津中学校(6)・神戸市立高津橋小学校(4)・神戸聖ミカエル教会(6)・神戸昇天教会(2)・明石聖マリア・マグダレン教会(6)・傾聴ボラテンフラワー(10)・地球と行動委員会(3)・園芸倶楽部(6)・たまみ会(4)・神戸市社会福祉協議会ワークキャンプ(4)・牧羊幼稚園の園児との交流会(20)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・音楽療法教室・夕涼み会・健康野菜市・一閑張り教室・母の日クッキング・父の日・音楽教室コンサート・LSA地域コミュニティ支援・ご家族懇談会・ドライブ・お茶会・映画鑑賞・美術館の芸術鑑賞・バザー(神戸聖ミカエル教会)・神戸聖ミカエル教会男子会・玉津南公民館給食会・親子料理教室・ふれあい祭り 健康チェックコーナー・クリーン作戦・盆踊り大会 他</p>		
取得資格	介護福祉士(1)・介護初任者研修(1)		

事業報告

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能	報告者	西川 晃
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフと資質向上とチャレンジ 4. 地域の拠点作り				
事業評価					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援することに力を入れてきた。今年度は、訪問活動を強化し、独居高齢者の毎日の安否確認や入院中の身の回りのお世話、個別での買い物付き添い等、その方の希望される生活実現を目指した。年間を通して、人材難から大勢での外出は少なかったが、地域の諸行事に出掛けたり、近隣の公園までお散歩に出掛けたり、理美容の付き添い、お出掛けの送迎・付き添い等、その人らしい暮らしの実現の支援を積極的に取り組んだ。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年度当初に施設入所が数名あったものの、制度改正による登録者枠を29名に増やし、2ヶ月程度、到達が出来た。年間収入74,884(千円)、予算に対し、99.8%達成率で、次年度に繋げていきたい。</p> <p>3. スタッフの資質向上とチャレンジ:ビジョンを掲げ、個々の担当者を決め、情報の共有とその人らしい暮らしの実現するにはどうしたら良いかを考える機会を大切に、お困りの方を積極的に受け入れるチャレンジを実践した。</p> <p>4. 地域の拠点作り:音楽療法教室や健康野菜市等の一般参加型プログラムや体験利用や緊急宿泊を実施し、高齢者が気軽に足を運べる環境と困った時に寄り添える環境を準備し、拠点を担えるようにチャレンジしている。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える 2. 財政基盤の確立 3. 人材育成とスタッフの定着 4. 地域共生				
事業評価					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピックの理念のもと、入居者の方と同じ時間を過ごさせて頂くことで皆様の体調や気持ちに対して細やかな対応ができるようになってきた。クリスチャンの方と一緒に礼拝に参加したり、認知症の方が神戸西に入居後、落ち着かれたりと、入居者の皆様がその人らしい生活を送るためのお手伝いのできつつあることを実感している。</p> <p>2. 財政基盤の確立:2015年度年間稼働率97.9%と前年度より0.9ポイント下がったものの、サービス活動増減差額は19,279円(単位千円)と増減差額予算に対して162.1%増で2015年度を終えることができた。安定した収益を得たことと人件費や賃借料等の支出を削減できたことが要因だと考えられる。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着:今年度のオリンピック職員離職者は1名であった。非常勤職員の定着率もあがっていることも評価できる。今後は既存スタッフの定着、資格取得及び、新スタッフ獲得に尽力する。</p> <p>4. 地域共生:地域との相互交流も定着し、地域に根付いた施設になりつつある。また、様々な方がボランティアとして訪れていただけるようになった。多くの方に支えられて地域密着型特養が運営されていると実感している。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	神戸西	部門	居宅介護支援	報告者	芦田 智子
事業目標	1. 地域住民をはじめ高齢者からの介護相談窓口としての役割 2. 他部門と地域との協働 3. 居宅介護支援の質の向上 4. 財政基盤の安定				
事業評価	<p>1. 地域住民をはじめ高齢者からの介護相談窓口としての役割:現利用者や以前の利用者をはじめ民生委員の方や近隣病院からの新規相談が増えしっかりと役割を果たし、確実に居宅介護支援数の増加に繋がっている。</p> <p>地域包括支援センターからは困難事例の対応依頼もあり、公平中立な視点で保険・医療・福祉の関係各機関との連携が構築出来ている事業者として評価頂けているものと感じている。</p> <p>2. 他部門と地域との協働:神戸西に相談にこられた高齢者に対してより必要なサービスが提供できるように特養と多機能との連携を図った。また介護保険外のような相談にも柔軟に対応する事で近隣の関係機関との連携も多くなり確実に信頼度も向上している。</p> <p>3. 居宅介護支援の質の向上:様々な相談に対応する必要性が昨年度以上に増していた。幅広い知識と柔軟な対応が行えるように各種研修・講習会に参加しスキルアップ出来るように努力した。</p> <p>4. 財政基盤の安定:実績は向上しているが年度途中で明石の事業所が実働したため、年度後半の利用者の上限を超える関わりを行うも収入が低下する時期もあった。年度としては初めて収支がプラスで終了する事ができた。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 3. 財政基盤の確立 4. 今津高層住宅の自治会との協働				
事業評価	<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立:シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認、コミュニティづくりに役立つ支援。一時的な家事支援、緊急時の対応、関係機関等との連携、その他、日常生活に必要な支援を実施している。</p> <p>2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開:神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を継続している。4年目に入り、ようやく自治会との関係が改善され、集会室をお借りして、出前トークによる認知症理解の為の講習会や学びすとネットを利用して、マイナンバー制度の勉強会を実施した。また、神戸西の厨房の協力等も有り、手作りケーキをお出ししての茶話会等も開催でき、住民間の交流の機会にもなり、好評であった。</p> <p>3. 財政基盤の確立:収入に関して、年間委託費 4,100千円。助成金事業も、上限一杯、コミュニティづくり事業として申請、年間を通して、行事の開催とLSA便りを発行できた。行事は、対象世帯の6割の参加があった。</p> <p>4. 今津高層住宅の自治会との協働:シルバーハイツの入居者が、いつまでも"その人らしい"暮らしを実現するための支援を行っていく。情報提供等をはじめ、神戸西との連携を継続し、自治会担当者を支援・協力していく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全な育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童クラブ(学童保育)の充実 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
総括			
<p>オリンピアの理念を実践すべく毎日の朝礼で「オリンピアの理念」と「オリンピアの3つの約束」を確認してから1日をスタートすることを今年度も継続できたことは基本を先ず大切にするという点で職員間に定着できた。</p> <p>放課後児童クラブでは児童館とコーナーの特色を活かしつつ、児童館行事というプログラムを通して児童が触れあえる場の提供が積極的にできたと思う。地域交流コーナーの一部が児童館で継続的に活動しているので児童館プログラムへの地域の方の参加等スムーズに展開できた。また、地域の方が気軽に立ち寄れるように配慮できた。</p> <p>運営経費に関しては、事務費、事業費共に厳しい状況だったが、今年度もかなり抑えることができた。</p> <p>親子館事業について利用者の拡大を図れるように再度しっかりとした基盤作りをしていく。</p>			
事業評価			
1. 児童の健全な育成			
・月行事等プログラムに関しては職員間で相談して作り上げ、一般来館、学童の児童、親子等の参加と異年齢児が集えるように配慮できた。その中で子どもたちの集団モラルを学ぶ環境づくりができた。			
2. 子育てと家庭の支援			
・各プログラムを通して、母親同士のコミュニケーションがとれる場の提供と母親がいつでも立ち寄れる環境をつくり初めての来館親子も他の方とすぐに馴染めるように配慮した。すこやかクラブ修了母子の集まりの場にもなった。			
3. 放課後児童クラブ(学童保育)の充実			
・児童館行事にも積極的に参加し、児童館・六甲コーナーそれぞれの特性(環境と学年比、男女比)を活かした中で生活が送れるように配慮できた。			
4. 職員の資質の向上:ひとりひとりがこれによしと満足することなく次年度も更なる向上を目指せるようにする。			
研修	・館長研修 ・コーナー長研修 ・指導員研修 ・放課後児童クラブ支援員研修 ・専門相談研修 ・キッズサポートスタッフ研修 ・エビベン講習会(市民病院)		
見学・実習 ボランティア	トライやるウィーク(中学生3名) ワークキャンプ(高校生6名)		
行事	コミュニティ行事(夏まつり・卓球大会・都作品展・秋のお楽しみ会・もちつきと昔あそび・ひなまつり 輪投げ大会)・毎月行事・灘区合同行事(3回)・子どもフェスタ なかよしひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママのリフレッシュタイム・子育てママのティータイム) すこやかクラブ・キッズクラブ・低学年ママのカフェタイム・学童お誕生日会		
取得資格	放課後児童クラブ支援員(1)		

施設	障害者就労支援センター オリンピア岩屋	報告者	センター長 阪田 昌三
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者ニーズに合わせた支援 3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実 4. 地域における役割 5. 新たな事業展開に向けて		
総括	<p>運営基盤がようやく強固になり、利用者の定数確保、安定した国保収入の中で1年を過ごすことができた。</p> <p>様々な障害の方への仕事、生活へのサポートはスタッフ一丸となってオリンピアで過ごす1日は充実したものになるように活動出来た。仕事だけでなく、日々の会話や一緒に働く仲間の関係など人として大切なものを感じ、自信や達成感をえられる事業所が確立できた年度であった。</p> <p>オリンピアを発信していく取り組みとして今年で2回目の参加である世界自閉症啓発デーLIGHT IT UP BULEに運営協力として関わり、障害者関係、各種団体に向けて啓発活動のサポートを積極的に行う。また、兵庫・生と死を考える会へも協賛団体として関わり、鎌田實氏の講演会についても成功に終えることができた。</p>		
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:開所から4年で安定した収入を確保することが出来た。昨年比として約400万の増収。</p> <p>2. 利用者ニーズに合わせた支援:18歳から64歳までの方がいるので利用ニーズが異なり、生活リズム、就労ステップなど個々に合わせてサービスの提供を行った。また、生活面のサポートして他機関(支援センター、居宅介護事業所、短期入所事業所、区役所CW等)との連絡とる中で安心して暮らせる環境を整える。</p> <p>3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実:3年目を迎える年間の作業予定も見通しを持つ形で計画的に実施。今年度は利用者の参加を重視し、自然に触れること、作物が育つ過程を共有することで、自信を持つことに繋がった。特に対人関係が苦手な利用者が地域の人と交流の機会を持つことが出来た成果は大きい。</p> <p>4. 地域における役割:野菜市を定期的に行うこと、今回は年末にもちつきをするなど地域に周知されている。</p> <p>5. 新たな事業展開に向けて:特定相談のニーズが高くなってきているが、事業展開に必要な資格は職員が取得したが、現業の事業との人材や資格を含めた状況では折り合いがつかず保留の状態となる。</p>		
研修	<p>[内部]若手リーダー育成研修</p> <p>[外部]発達障害児(者)のための基礎と実践講座・神戸市自立支援協議会研修研修 精神保健支援者研修・相談支援専門員従事者研修・発達障害事業所研修会 兵庫・生と死を考える会講演会</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学]青陽東養護学校(60)・灘障害者地域生活支援センター(5)・株式会社ワードワールド(1) 個人(20)・養父市シルバー人材センター(2)・(有)あした(1)・東灘障害者地域生活支援センター(2) NPOクルーズ(5)・NPOあつとオーティズム(6)・みかげ中町(1)・ハンズ三宮(1)</p> <p>[実習]青陽東養護学校(2) [体験]個人(10)</p>		
行事	<p>野菜市(丹波)サテライトコラボ・初詣・花見・もちつき(岩屋)・都保育園バザー バザー(神戸聖ミカエル教会・Salon de l'Olympia・せいようフェスティバル・Olympia Market!! 事業所紹介フェアe-pro・なだびと喫茶・なだびとびあ)・黒豆まる演歌コンサート LIGHT IT UP BULE～世界自閉症デイ啓発イベント～花の日礼拝・収穫感謝祭・</p>		
取得資格			

施設	発達障害者サポートセンター オリμπア住吉	報告者	センター長 阪田 昌三
事業目標	1. 「障害者就労支援事業」の充実 2. 利用者数の安定化 3. 活動内容の広報強化 4. 商品の地域連携による販売拡大 5. 職員の障害特性理解と支援技術の向上		
総括	<p>オリμπア住吉も3年目を向かえ、他法人ではあまりない特定の障害の方に限定することなく、障がい特性の違う方が多く利用される事業所として構築することが出来た。また、区役所、障害者地域生活支援センター、発達障害相談窓口、就労関係機関のからも評価をいただき、見学者が昨年度より増加した。</p> <p>発達障害の方が不安無く、持っている能力を十分に発揮できるようICT機器の活用も積極的にしてきた。</p> <p>日中活動でiPad を使い、コミュニケーションツール、また、就労支援の一環として必要なアプリを使って、レジ練習等の経験を通して、楽しみながら操作やスキルアップに取り組んできた。また、アプリを使ったレクリエーションをすることで利用者間での共感・共有することでお互いの関係を築くことにも効果があった。</p>		
事業評価	<p>1. お菓子作業の注文が多くはいり、メンバーの作業が安定された。また、実際お店で販売しているものに関われることで、やりがいとなって自信を持ち次のステップや利用日数を増加するなど効果がえられている。</p> <p>2. 人数が増えてきたことで、利用者数が安定するようになった。見学、体験も個人で見学に来られたり、紹介で来られたり等、就労支援のPRが確実になものになり、継続的に利用につながることに至った。</p> <p>3. 利用者視点に立って「どんな仕事をするのか？」という素朴なところからチョコレート梱包作業、ポストカード、名刺ケースなど店で目にするものに携わっていることを周知することで見学者、新規利用につながった。</p> <p>4. 自立支援協議会しごと部会において、他事業所とコラボ商品を作成するという企画を1年間通しておこなった。結果、3月の御影クラッセでの販売会で商品を販売することができた。</p> <p>5. 昨年度に引き続き、東京大学先端科学技術研究センター「魔法のプロジェクト」に参加させていただき、多くの方の障がい特性や支援技術を学ぶ機会となった。</p>		
研修	<p>【内部】兵庫リーダー会</p> <p>[外部]西宮月曜の会、国分病院研修会、南芦屋浜病院発達障害講演、生田教会発達障害講演、呉田サポートネット研修、ATAC京都、東灘しごと部会研修、東灘ネットワーク会議、姫路RC発達障害、東京大学先端科学技術研究センター「魔法のプロジェクト」(導入セミナー、全国セミナー、成果報告会)</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>青陽東養護学校(50)、うおざき支援センター(2)、ひがしなだ支援センター(2)、発達相談窓口(1) 神戸市立須佐野中学(1)、大阪医専(1)、株式会社スプリングス(1)、照明塾(1)、シーパル須磨(1) 木の芽福祉会(3)、ウッズ(1)、東部就労推進センター(2)、エコミュアド(1)、プリモ芦屋(1) ティアイ商事(2)、個人見学(15)、教会(1)、神戸市立住吉中学校(3)、ほほえみ訪問介護(1)</p>		
行事	<p>ビデオ上映会、利用者向けタブレット教室、あかり制作教室、事業所紹介フェア まんまるケっぺい、オリμπア都保育園(market)、オリμπア兵庫(market) 住吉駅前駐輪場清掃、バザー(神戸聖ミカエル教会)、住吉神社訪問、自主製品市場調査 日本福祉文化学会</p>		
取得資格			

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 広報への取り組み 4. 人材の確保・育成 5. 安全への配慮・対策		
総括			
<p>2015年度は20室が満室の状況でスタートする事ができた。待機者の確保も行えており、3室の退去があったが、空白期間を作ることなく、次の方をすぐにお迎えする事ができている。待機者の確保が重要であり退去に備えて、待機待ちをされている方について、常に連絡を取り状況を把握すると共に新たな待機者の獲得を行う。訪問介護事業に関しては、入居者の身体レベルの低下等により、サービス量が増加し、予算に対して大幅に上積みすることができている。今後は住宅外のサービスを積極的に獲得していき収入の増加を目指す。デイサービスも順調に増加しており、速やかに定員の上限まで達する事ができるよう営業を強化する。居宅介護支援事業所を平成28年2月にオープンさせ、地域との係わりを強化していく。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:「今まで通りの生活をこれからも続ける事ができている。」と入居者の皆様から評価して頂いている。安心して生活を送ることができており、今後も「その人らしい暮らし。」ができるよう支援を行っている。</p> <p>2. 財政基盤の確立:年度の初めから20室が満室でスタートをきる事ができた。年度中に3室が退去されているが、空白期間ができないよう次の方をお迎えする事ができており、これからも満室状態が継続できるよう、待機者の獲得に努める。</p> <p>3. 広報への取り組み:灘区で開催される研修会や会議に積極的に参加しており、住宅部門や併設事業のデイサービスやヘルパー事業所等のPRを行い、オリンピア鶴甲の広報に努めた。</p> <p>4. 人材の確保・育成:スタッフ全員が同じ目標に向かうことができるようにOJT等で研鑽を積み実践している。</p> <p>5. 安全への配慮・対策:年2回の消防訓練を実施し、非常時に備えた訓練等を行う事で安全対策に努めた。</p>			
研修	<p>新入職員研修、新入職員OJT、スキルアップ研修、高齢者虐待防止研修 灘区さくら塾、灘区えがおの窓口連絡会、灘区訪問介護連絡会、地域ケア会議</p>		
見学・実習 ボランティア	鶴甲地区民生委員見学		
行事	<p>チェロコンサート 都保育園との交流会 音楽療法を週1回定期的に行う</p>		
取得資格	介護職員初任者資格。		

事業報告

2015年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	橋本 伸也
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 入居者へのサービス向上 3. 建物の維持管理				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立:常に20室満室の状態を維持しながら、入居待機者の確保に努めました。退去予定の方がわかった段階で速やかに入居待機者の方へ入居の意志確認を行い、居室の空き状態を出来るだけ短くなるように心掛けました。また、水光熱費の経費見直しを行い、2016年度の10月予定で光熱水費値上げを実施する予定です。</p> <p>2. 入居者へのサービス向上:入居者の方がオリンピック鶴甲で楽しく生活していただけるように入居者の方々の希望や思いを基に細かく対応していきました。送迎サービスや生活支援等のサ高住としてのサービス提供も第3四半期後半あたりから少しずつですが、増えてきました。</p> <p>3. 建物の維持管理:建築後1年保証の期間内に不具合箇所の補修を実施しました。居室玄関扉の隙間調整、居室トイレおよび共用部分の廊下の手すりの緩みの増し締め、非常階段扉の隙間調整等入居者の方が安心して暮らして頂けるように建物の維持管理を実践しました。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	落 昌之
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立:住宅部分のサービス量が増加し、当初予算を超える実績を達成することができた。利用者のニーズを細やかに汲み上げていき、サービス利用に結び付ける事ができたのが大きな要因となっている。外部のサービスも積極的に受け入れ、今後も収益を確保していき財政基盤の確立に努める。</p> <p>2. サービスの質の向上:利用者のニーズに幅広く対応していき、ケアマネジャーとの連携を図りながら「その人らしい暮らし。」ができるようサービスを提供した。日常生活に問題等が発生した場合は、速やか解決するよう取り組み利用者の満足度を高めて行った。</p> <p>3. 材の確保・育成:サービス利用の増加に伴い、人材不足が著明となり、ヘルパーの募集が急務であった。利用者の方々に迷惑をかける事がないよう、対応を行いながら人材募集を続けて行った結果、ヘルパーの人数もサービス量に見合うようになってきている。外部のサービスも獲得できる時間が取れるようになっており、今後は外部のサービス獲得に力を入れていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	富原 実治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材確保・育成				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立: 利用者の獲得を行うために居宅介護事業所・地域あんしんすこやかセンター等への訪問を行い積極的にアピールを行った。週1回の音楽療法レクリエーションも取り入れ、地域の方々への周知を図った。利用者に関しては外部からの方々も順調に増え、1日平均10名を超えている。</p> <p>2. サービスの質の向上: 利用者様や家族様の希望や意向を確認しながら、お一人おひとりに対しての楽しみがある時間を過ごして頂いている。自宅での生活が継続していけるようADLやIADLの維持・向上を図ると共に、脳トレ等による認知機能の低下予防を実践している。外出行事や季節のイベント等も行い、1年を通じて飽きることのないサービスを提供している。</p> <p>3. 人材の確保・育成: サービスの質を向上するために、利用者数に応じて人材の確保を図っている。様々な方法でスタッフの確保ができつつあり、個々のスキルアップをオリンピアの理念に基づいて行っている。オリンピアのスタッフとしての誇りと責任感を持って従事することを目標として実践することができた。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業報告

2015年度

施設	オリンピア鶴甲	部門	居宅介護支援	報告者	落 昌之
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援を行う 3. 介護予防ケアマネジメントの委託を受ける				
事業評価					
<p>1. 財政基盤の確立: 平成28年2月に居宅介護支援事業所を開設する。オリンピア灘居宅が休止となる為住宅部分やオリンピア鶴甲に係わっておられる方のケアマネジメントを担当した。オリンピア鶴甲全体の収益を確保していくために、新たな利用者を獲得していく。</p> <p>2. 質の高い居宅介護支援を行う: 利用者の状況把握等に努め、ご利用者様の望む生活や意向をくみ取りながら、サービス計画等を作成し実施している。豊かな生活を送ることができるよう、これからもご利用者様の生活を見守っていく。</p> <p>3. 介護予防ケアマネジメントの委託を受ける: 介護予防ケアマネジメントに関しては地域包括支援センターから委託を受け、プラン作成を行った。また、地域包括支援センター等が実施する研修会等に参加して地域との係わりを深め、積極的に介護支援業務の知識等を習得した。</p> <p>サービス事業者との連携も図り、ご利用者様の情報や地域の資源等を収集し、質の高いケアマネジメントを実践していく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	寺次 勉
事業目標	1. 居宅介護支援事業所オリンピア明石の開設 2. 財政基盤の確立 3. 地域に根差した拠点づくり				
事業評価	<p>1. 居宅介護支援事業所オリンピア明石の開設: 年度途中での開設となったが本部の協力もあり何とか無事に開設をすることができた。開設することが目的ではなく明石市にオリンピアの理念を浸透させ地域に根差した相談窓口としての機能を担っていけるよう到来年度も更なる活動をしていきたい。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 神戸西で担当していた利用者を継続して支援することで開設当初の財政基盤を整えることができた。介護予防支援利用者を中心に神戸西へ戻していくが収支状況を鑑みながら移行していきたい。まずは明石市の利用者を増やすことに重点を置き、更なる財政基盤の確立を図るために次年度では併設事業所の開設を計画し実行に移していきたい。</p> <p>3. 地域に根差した拠点づくり: 今年度は地域包括支援センターや急性期病院、回復期病院との連携を通しての拠点作りを実行した。地域の自治会や周辺の学校などへの関わりを作ることはできなかった。次年度は自治会や民生委員、周辺の学校関係者との関わりを作り、地域に根差した拠点作りを更に充実させオリンピアの理念の浸透や高齢者の相談窓口としての機能を担っていけるようにしていきたい。</p>				

施設	グループホーム オリμπア篠原	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>2015年度は、光朔会オリμπアの理念を実現するための新しい「認知症ケアの拠点」としてグループホーム オリμπア篠原がオープンした。地域密着を浸透していくために、オリμπア篠原を知っていただく方策として自治会への加入、活動を行い、地域の行事へ参加、協力を取り組んだ。認知症ケアの理解、虐待防止、法人の歴史など、各種研修にて学びを行い、スタッフの資質向上に努めた。また、内外の研修、若手育成リーダー研修、灘区他職種勉強会などに参加し、他部門、外部と繋がりを作りながら研鑽を積んだ。次年度は、今年度の取り組みを継続していき、更に広域にオリμπア篠原を発信していくことが必要である。そのため、財政基盤を確立して計画のある運営を行うため、見学を積極的に受け入れ、情報発信を拡大させていくこととする。</p>		
事業評価	<p>1. 「認知症ケア」の確立:理事長研修、認知症ケアの理解などの研修を受講、カンファレンスやリーダー会議にて日々の課題や、オリμπアの理念に基づいたケアが実践できているかを確認、改善していくことができた。</p> <p>2. 地域密着の浸透:地域密着の浸透:開業初年度であり、知っていただくために地域の社会資源との繋がりを目指した。自治会、地域福祉センター、民生委員との繋がりを強化することができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立:収入予算の達成には至らなかったが、支出を慎み、適正な事業運営を整える一年となった。審査は通らなかったが助成金にチャレンジをした。継続して、新しい収入源を模索していきたい。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦:長期的なプロジェクトとして、若年性認知症介護の家族支援を目指している。支援、交流の拠点としていくため、自治会や地域の事業所へ情報発信をする一年として活動した。</p> <p>5. 人材の育成:資格習得、各種研修の受講など、スタッフの資質向上に努めた。初めて、介護職を始めたスタッフも先輩スタッフと力を合わせて、理念の理解、パーソンセンタードケアを学び、実践している。</p>		
研修	理事長研修・虐待防止研修・新人合宿トレーニング研修・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・パーソンセンタードケアコミュニティ・沖縄研修・身体拘束・感染症・後見人制度開設前研修・さくら塾(灘区他職種勉強会)・発達障害理解の講座・生と死の会講演会・認知症実践者研修・初任者研修(講師派遣)神戸西ロータリークラブ公開講座		
見学・実習 ボランティア	灘区篠原南民生委員(12)篠原北町民生委員(1)篠原地域福祉センター(1)篠原本町自治会(1) ご入居希望者見学(26)、六甲教会(2)御影教会(2) あみぐるみ教室(ボランティア)		
行事	開所式・1周年記念パーティー・運営推進会議・誕生日会・お花見・神戸布引ハーブ園・横尾忠則美術館・手塚治虫記念館・神戸ブランド亭・神戸ポートタワー・アートカフェ・敬老の日お茶会・うどん扇屋・チェロコンサート(七夕・クリスマス)・電車に乗ってショッピング・ドライブ・クリスマスパーティー 保育園児交流会、第三者評価、避難訓練		
取得資格	介護福祉士(1)実務者研修(1)初任者研修(1)市民救命士(3)		